

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0171401680		
法人名	有限会社 ハマダコーポレーション		
事業所名	グループホーム おもひで懐		
所在地	〒041-0836 函館市山の手2丁目5-16 (電話) 0138-30-1122		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年3月26日	評価確定日	平成22年4月28日

【情報提供票より】(平成21年12月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年	10月	11日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	16人	常勤	16人,	非常勤 0人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	23,600~28,600 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	500 円
	夕食	550 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月26日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	4名		
要介護5	5名	要支援2	0名		
年齢	平均 88歳	最低	77歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	菅原内科クリニック・函館渡辺病院・ひらい歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、函館山が見える景色の良い住宅街に位置し、警察署や消防署も近い。事業所内は家庭的な雰囲気、窓が大きく、天井も高いので日当たりが良い。台所はオープンキッチンで、職員は作業をしながらでも利用者に目が届きやすく、利用者も気軽に台所で手伝うことができる。月1回、近隣ボランティアによる音楽療法や「おはなし会」を行い、利用者の楽しみとなっている。また、事業所の行事にも多くの地域住民が参加し、地域との交流を深めている。介護度の高い利用者が多いが、散歩や買い物といった普段の外出だけでなく、ドライブや外食などの外出レクリエーションも数多く計画している。職員の福利厚生にも配慮し、全職員が正職員であることが、介護職としての意識や質の高さに繋がっている。職員は、「その人の人格を尊重し、穏やかに楽しく暮らしていただく」という理念を念頭に、明るく穏やかに利用者へ接している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題である重度化や終末期に向けた方針の共有については、今後職員、家族、医療関係者で改めて話し合い、方針を書式化するとともに、体制を整えることを期待する。災害対策については、年2回、夜間も想定した避難訓練を行っており、毎月自主防火点検を行い、ユニット会議でも防災について話し合うなど、体制の強化に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表はファイルし、項目について職員が見ることができるようにしている。全体会議で職員の意見を聞きながら管理者が記入している。また、外部評価の結果や具体的にどのように改善に取り組んでいくかについて、申し送りや全体会議で話し合っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は代表、管理者、家族・町内会役員、保健所保健師、地域包括支援センター職員等が参加し、2ヶ月に1度開催している。会議では、利用者の暮らしぶりや事業所の行事の様子、外部評価の結果等について報告している。また、医療や防災について、参加者と活発に意見交換や情報交換を行い、それらの意見や情報を運営に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用開始前に本人や家族と話し合いを重ね、事業所の見学を行うなど、不安なくサービスを開始できるよう努めている。事業所便り等で利用者の暮らしぶりを詳細に伝えている。また、意見箱を設置し、家族の来訪時には積極的に声かけし、意見や要望を気軽に言える雰囲気づくりに努めている。意見や苦情に対しては速やかに対応し、苦情相談記録ファイルを作成し、詳細に記録している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、できる範囲で町内会の行事や活動に参加している。近隣ボランティアによる音楽療法や紙芝居や本の読み聞かせの「おはなし会」が月1回開催され、利用者の大きな楽しみとなっている。七夕や夏祭りなどの事業所行事には多くの地域住民が参加し、地域住民と利用者との良い交流の機会となっている。また、認知症サポーター養成講座を開催し、相談を受け付けるなど地域貢献にも取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員で話し合い、家庭的な雰囲気の中で、「『その人らしさを大切に』楽しく穏やかに暮らしていただく」という、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、朝のミーティングや日々の業務中で折に触れ職員に理念について話し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、できる範囲で町内会の行事や活動に参加している。近隣ボランティアが毎週行っている音楽療法と月1回の「お話し会」が、利用者の大きな楽しみとなっている。また、事業所の行事に、地域住民が参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全体会議で職員の意見を聞きながら、管理者が記入している。また外部評価の結果や具体的にどのように改善に取り組んでいくかについても、申し送りや全体会議で話し合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催し、利用者の暮らしぶりや事業所の行事の様子、外部評価の結果等について報告している。また、参加者と活発に意見交換や情報交換を行い、それらの意見や情報を運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所側から積極的に保健所や地域包括支援センター等を訪問して意見交換や情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、認知症サポーター養成講座を開催し、市町村との連携の強化を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している事業所便りでは、個別のお知らせ欄も作成し、利用者の生活状況や身体状況について詳細に報告している。併せて行事の際の写真や献立、買い物等の伝票の原本、介護計画や外部評価の結果等も送付している。また、職員の異動時や新規職員採用時も事業所便りで家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、家族の来訪時には積極的に声かけし、意見や要望を気軽に言える雰囲気づくりに努めている。出された意見や苦情には速やかに対応するとともに、詳細な記録として残している。また、重要事項説明書に事業所内部だけでなく、外部の相談窓口についても明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規職員採用時はきちんと利用者に紹介するようにしている。また、職員は全員正職員であり、年休も取りやすくするなど、長く働きやすい職場環境づくりに努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会のブロック別研修を中心に研修を受ける機会を確保しており、資格取得に向けての支援も積極的に行っている。また、研修内容については全体会議等で報告し、研修に参加できなかった職員も情報を共有できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会やブロック別会議を通して、同業者との意見交換や情報交換を行い、サービスの質の向上につなげている。また、会議の会場は各事業所の持ち回りであるため、他法人の事業所を見学する機会にもなっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には家庭訪問を重ね、本人や家族と話し合い、状況を確認している。また、事前に事業所の見学を行ったり、使い慣れた物を持ち込むなど、本人や家族が納得して、不安なくサービスを開始できるよう努めている。利用開始後も事業所での生活に早く馴染めるよう、声かけ等の配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、料理の味付け、野菜や花の育て方など、利用者から学ぶ場面が多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から本人の好みや生活習慣などの情報を得ながら、できるだけ本人の思いや意向に沿った支援ができるよう努めている。意志表示の困難な利用者に対しては選択肢の中から選ぶようにし、利用者の自己決定を大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員が、日常の利用者の状況や家族の意向などの情報をそれぞれ業務記録に記載し、それを基に計画作成担当者が介護計画を作成している。作成後は家族が確認し、サインを得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1度定期的に見直している。また、見直し期間以前に状況に変化が生じた場合には、家族と話し合い、随時計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の受診、散歩、買い物、理美容院等、本人や家族の希望に応じて、職員が柔軟に送迎や付き添いの支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前からのかかりつけ医への受診支援を行っている。また、月2回、協力医療機関の医師による訪問診療と看護師による訪問看護を行っている。協力医療機関とは、24時間協力体制にある。また、近隣の精神科病院医師に、認知症に関する相談や助言を受けることができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に家族と重度化や終末期に向けての話はしているが、まだ事業所としての書式化された方針はなく、職員、家族、医療関係者で改めて話し合い、方針を共有するには至っていない。	○	今後、さらに利用者の重度化が進み、看取りをする可能性も考えられるため、職員、家族で改めて話し合い、事業所としての方針を書式化すると共に、医療関係者とも連携を図り、重度化や終末期に向けての体制を整えることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーを尊重し、明るく穏やかに接している。また、記録は鍵のついたキャビネットに保管し、面会簿は小さな紙に書いて箱に投函する形にするなど、個人情報の取り扱いにも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、就寝等の時間は、事業所の決まりにこだわらず、利用開始前からの利用者の生活のペースやその日の体調に応じて柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の要望を聞きながら決めている。利用者と職員が全員で1つの大きなテーブルを囲み、楽しく食事をしている。利用者と職員が一緒におしぼりをたたんだり、食器洗いをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能である。また、希望により同性介助を行っている。概ね月に2回程度、管理者が温泉水を運び、利用者が温泉を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者はそれぞれの好みや能力に応じて、食器洗いや掃除、園芸などの役割を担い、職員と一緒にやっている。また、毎週行われている音楽療法や月1回の「お話し会」は、利用者の大きな楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物などの日常的な外出だけではなく、ドライブや外食といった外出レクリエーションも毎月計画している。また、外出レクリエーションの計画は記録として書式化し、次回の参考としている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ防犯のため施錠しているが、日中は施錠していない。職員の事務コーナーが玄関のすぐ側にあり、利用者の外出を察知できるよう、常に気を配っている。居室にも鍵がついているが、外から開けることができる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、年2回、夜間も想定し、搬送訓練や消火器の使用も含めた避難訓練を行っている。仏壇を所持している利用者もいるが、火は使用しないようにしている。また、毎月自主防火点検を行い、ユニット会議でも防災について話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェックシートに記録して把握し、不足しないようにしている。利用者の状態により刻み食、ミキサー食、糖尿病食等の対応をしている。極端に食事量が少なく、体重の減少が目立つ場合は、医師の指示により高栄養流動食を利用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、浴室、トイレ等には手すりを付けている。台所はオープンキッチンで、職員は作業中でも利用者に目が届きやすく、利用者が気軽に台所に入って手伝うこともできる。天井が高く窓も大きいので、事業所全体、日当たりが良く明るい。ウッドデッキに木の椅子を置いたり、居間と廊下の間にソファを置くなど、利用者がくつろぐことができるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者はそれぞれ、使い慣れた調度品や好みの生活用具、思い出の品等を自由に持ち込み、安心して居心地良く過ごせる居室となっている。		

※  は、重点項目。